

令和2年4月の解説（府県天気予報）

【4月の天候状況】

上旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりましたが、東日本と西日本では高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。東日本太平洋側と西日本日本海側の日照時間の平年比は、それぞれ144%、148%となり、4月上旬としては1961年の統計開始以降で最も多くなりました。一方、低気圧は北日本付近を発達しながらたびたび通過したため、北日本の降水量はかなり多くなりました。気温は、北日本は低気圧に向かって暖かい空気が流れ込みやすくなり高かった一方、西日本と沖縄・奄美は寒気を伴った移動性高気圧の影響を受けやすくなり低くなりました。

中旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わり、本州付近を低気圧が発達しながらたびたび通過したため、北日本太平洋側と東日本、西日本では大荒れの天気となり、まとまった雨や雪となった所もありました。東日本太平洋側と西日本の降水量はかなり多く、東日本太平洋側の降水量の平年比は305%となり、4月中旬としては1961年の統計開始以降で最も多くなりました。一方、北日本日本海側と沖縄・奄美では高気圧に覆われて晴れた日が多く、沖縄・奄美の降水量はかなり少なくなりました。気温は、大陸からの冷たい空気が流れ込みやすかったため、全国的に低くなりました。

下旬は、高気圧と低気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わりましたが、西日本では移動性高気圧に覆われて晴れた日が多く、日照時間はかなり多くなりました。西日本太平洋側の日照時間の平年比は139%となり、4月下旬としては1961年の統計開始以降で2005年と並び最も多くなりました。東日本太平洋側と西日本、沖縄・奄美の降水量はかなり少なくなりました。一方、関東甲信地方を中心に上空の寒気の影響で大気の状態が不安定となり、雷雨となった所もありました。気温は、大陸からの寒気の影響を受けやすくなり、東日本、西日本と沖縄・奄美でかなり低くなりました。

【4月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値^(注)より3ポイント高い88%で、明後日予報は例年値よりも6ポイント高い88%でした。地方別の適中率では、明日予報は、東海、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。また、明後日予報は、関東甲信、東海、北陸、近畿、中国、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方で例年値を上回りました。

同じく17時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.6℃小さい1.3℃で、すべての地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値より0.3℃小さい1.2℃で、沖縄で例年値と同じだった以外は、各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁HP(予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の天気予報の利用にあたって】

例年、6月は、南西諸島付近に停滞していた梅雨前線が次第に北上して、九州や四国、本州付近に停滞することが多くなります。平年では、上旬から中旬頃にかけて、西日本、東日本および東北地方で梅雨入りとなります。梅雨の時期は他の季節に比べ、大雨が発生しやすく、山崩れやがけ崩れ等の土砂災害、河川の増水や氾濫などの災害をもたらすことがあります。大雨が予想される場合には、最新の気象情報や大雨・洪水の警報・注意報などに留意してください。